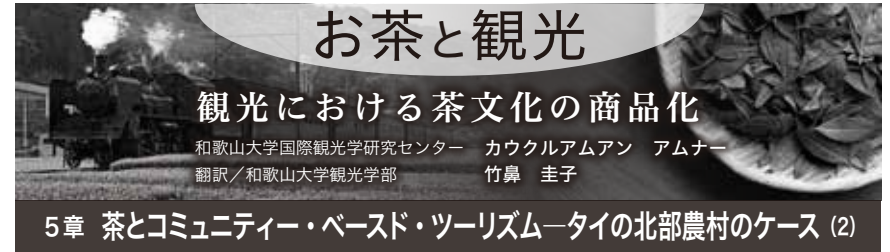


図1 メーカムボン村の位置

て観光事業に参画している。観光収入は、地域の協同組合を通じてCBTのメンバーに配分され、コミュニティの構成員である村民全員に利益をもたらす社会環境活動を包括する村の基金にも分配される。観光からの収入のほとんどは、3種類のツアープログラムのサービス料金である。3種類のツアープログラムには観光客のターゲットグループによって、日帰りツアープログラム、ホームステイプログラムとスタディーツアープログラムがある。次に示すプログラムは2013年の調査に基づいたデータであり、CBTの経営理念を支えている茶文化の商品化の考え方が示されている。

1. 日帰りツアープログラム

このプログラムは日帰り旅行の観光モデルを提供している。滝の見学、ローカルガイド付きの森林や野生茶栽培地域のショートトレッキング、茶に関連した活動参加などで構成され、茶に関連した活動には煎った茶葉のアロマ枕作りなどもあり、いつもは中国紅茶製造に使われている固い低価値茶葉に付加価値を付けている。このプログラムの主なターゲットは、国内と海外の旅行者で、特に事前の問い合わせはしない。国内の旅行者はほとんど直接やってくるが、海外からの旅行者はほとんどが西洋人で旅



1 メーカムボン村のコミュニティ・ベースド・ツーリズム (CBT)

コミュニティ・ベースド・ツーリズム (CBT) は特に小規模観光地観光開発計画のボトムアップ型アプローチの在り方を示している。CBTの概念は当初1950年代に地域振興の方法論として議論されたが、実際はトップダウン型であった。1960年代から1970年代にかけて、国際連合はCBTを推進してコミュニティの活性化を図り、慈善的支援性を払拭し、地域の教育を進展させた。1990年代には、CBTは地域観光への住民参加の中心となり、観光研究の二分野となった。2000年代の初めまではCBTは経営哲学となりサステナブル・ツーリズムに連携

するようになった。

上記のように、CBTは小規模観光地のサステナブル・ツーリズムとして定義され、その地域の住民が計画し、経営し、所有しており、観光で得られた利益はコミュニティの構成員に公平に分配される。CBTの原則は、地域の経済や社会や環境を基盤としているのである。

メーカムボンは、チェンマイ県メーオン地方の小さな高地森林茶栽培村で、コミュニティ・ベースド・ツーリズムを村の発展のツールとするミャンコミュニティの一つである(図1)。このコミュニティは100年以上前に、森林茶栽培の地を求めたドレイサケット地方からの移住民によって始まったが、1914年に正式に設立された。2011年時点で、全村で132世帯386人の規模であり、労働人口の大半がミャンとコーヒーの生産に携わっている。だが、ミャンの需要が減少しているため、森林茶栽培の土地も放棄されてきている。この状況は若い世代にも影響を及ぼし、都市部に仕事を求めて移住するようになり、土地は使用されなままである。収入を生み出す土地の再活用を進めるために、2000年に村の観光施策が正式に始まった。

メーカムボン村の30世帯以上が、CBTのメンバーとし

行会社からパッケージを購入している。直接訪れる旅行者にはサービス料は発生しないが、旅行者の消費から村民は直接収益を得ている。例えば、そういった旅行者は地域のレストランや店舗の得意客になり、1日2000バーツ(約600円)でローカルガイドを雇ったりする。したがって、このプログラムから得られる利益の内、村への配分はほとんどは旅行会社から得ることになる。

2. ホームステイプログラム

このプログラムには2種類のツアーパッケージがあり、直接村の担当者を通じるか、あるいは旅行代理店を通じての予約が必要である。1泊のパッケージは3食付きで1人550バーツ(約1650円)であり、2泊のパッケージは6食付きで1人900バーツ(約2700円)である。また、プログラムには地域のミュージシャンや学生ダンサーによるランナー文化パフォーマンス(1000バーツ、約3000円)や「バイスリスクワン」と呼ばれるウエルカムセレモニー(1000〜1500バーツ、約3000〜5000円)を提供している。このプログラムの主な活動は、野生茶やコーヒー栽培地域の観光や、滝の見学、ローカルガイドが付いたコミュニティの森林のシヨートあるいはロングトレッキング、植樹、作業グループへの参加、茶

料理などの体験付きのホームステイ、あるいはミヤン製法の学習などである。このプログラムのターゲットは国内や海外からのコミュニティ・ベースド・ツーリストであり、宿泊して地域に根差した活動を希望する人たちである。

3. スタディーツアープログラム

このプログラムのターゲットは、国内旅行者のグループで、村を通じて事前予約が必要である。学生、教育者、民間あるいは行政組織、そして他の村の住民たちで、スペイン語、フランス語、英語、または他の言語を話す観光客や、森林の茶やコーヒーの収穫や製造、ホームステイ、あるいは観光経営について学びたい人たちである。このプログラムは日帰りあるいはそれ以上の期間で行われ、1泊の場合、要望があれば文化活動も可能である。このプログラムの料金は来訪者の人数と活動内容による(図2)。

観光経営はメーカムボン小水力発電協同組合の取組の一部である。すべての村民が協同組合の構成員であることから、観光の収益は各世帯に年次配当の形で公平に分配され、観光に関係していない村民にも利益の分配がある。ホームステイを行っている村民は全収益の約60%を得、約40%が村の収益となり、他の観光サービスからの収益については、10%が村の収益になる。したがって、全てのツー



図2 茶文化の商品化に関するツーリズムプログラム

基金(20%)、行政管理基金(25%)、コミュニティ福祉基金(15%)、そしてコミュニティ委員会補償(10%)である。

メーカムボン小水力発電協同組合基金は多目的の中立的な予算で、コミュニティの振興に使われ、全世帯への年次配当も含んでいる。村振興基金は全ての開発事業(例えば、環境森林保全など)に使用され、行政管理基金は村の行政に使用される(例えば、広告やマーケティングなど)。コミュニティ福祉基金は健康や教育のための補償基金で、加えて村委員会リーダーのための補償がある。例えば、ホームステイプログラムの収益のマネージメントでは、1泊2日のパッケージ1人分で、パッケージの代金は550バーツ(約1650円)であり、ホームステイのオーナーは350バーツ(約1150円)を得、村は200バーツ(約600円)を受け取る。村に充たされた収益は5種類の予算基金に配分され、コミュニティと地域の人々に還元される(図3)。

リズムプログラムから創出される利益は村の発展のために充たされ、5種類の予算基金に分けられている。すなわち、メーカムボン小水力発電協同組合(30%)、村振興

衰退する地域の茶業の再生を、CBTの実施によって成功させた茶栽培コミュニティとして、メーカムボン村は海外からの観光客誘致農村としてグローバルに発展している。最近ではチエンマイ県の援助もあって、村は基石茶生

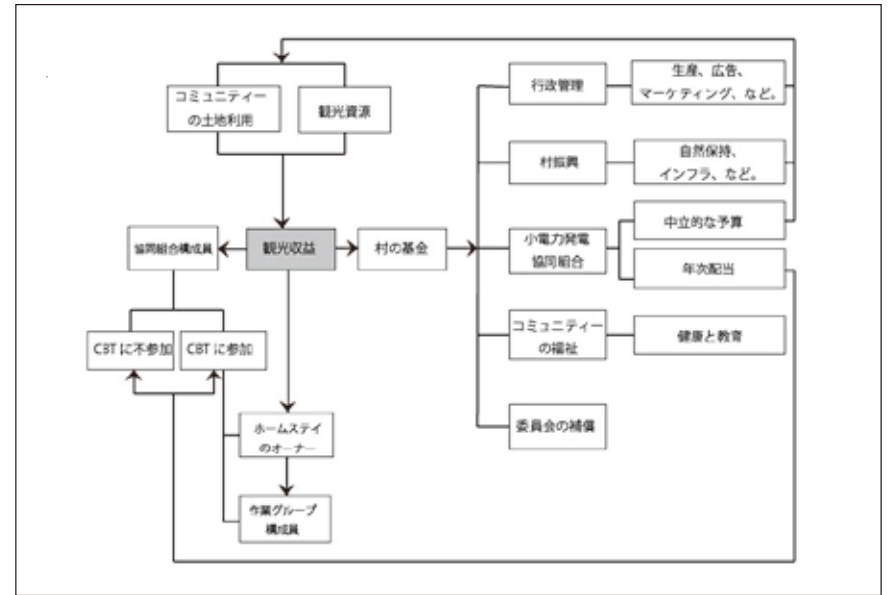


図3 CBTの概念を支えるメーカムボン村の観光収益管理分配

産のコミュニティである高知県大豊町と連携を計画している、姉妹都市として相互に発酵茶の生産と文化の発展を目指している。

2 結論

CBTはボトムアップ型のアプローチにより小規模な村などに適しているとされている。CBTの開発は、コミュニティに経済発展や地域への投資、社会的利益や生活の質的向上、そして環境保全という利益をもたらす。したがってCBTは経済、社会、環境の持続可能性をもたらす効率的な手法であるといえよう。茶栽培のコミュニティにとって、CBTは茶文化の商品化のすべての要素を包含しており、これはメーカムボン村のツアープログラムで説明した通りである。「ミヤン」の茶園はトレッキングやスタディーの空間として用いられ、「ミヤン」の文化はコミュニティの自然発生的なアイデンティティとして商品化された。茶葉は、新たにアロマ茶枕として観光商品となっており、さらに、茶関連の観光活動は、スタディーツアーのようなニッチ市場のグループに適切な活動となっている。

(カウクルアムアン アムナー)
 (翻訳者…たけはな けいこ)